平成２８年度

新紺屋小学校だより

甲府市立新紺屋小学校
校長室：岸本　伸
〒400-0016
甲府市武田1-3-34
TEL:252-2578
http://www.shinkonya-e.kofu-ymn.ed.jp/

平成２８年度　全国学力・学習状況調査の新紺屋小学校における調査結果

本年度の全国学力・学習状況調査は，４月１９日（火）に全国の小中学校で実施されました。本校でも６年生２８名が参加しました。この調査は，本校の児童の学力や学習状況を把握・分析し，各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより，今後の指導内容の充実や指導方法の改善，生活指導などに役立てることを目的としています。

今年度の結果について，県教委及び市教委による説明会をもとに分析を行いました。この結果の概要を保護者の皆様にお知らせいたします。なお，調査に参加した６年生一人ひとりには，個別懇談等を利用して個人票をもとに，具体的な課題等について説明していく予定です。よろしくお願いいたします。

〈調査内容〉

〇教科に関する調査（国語・算数）
◇主として「知識」に関する問題（Ａ問題）
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容など
・実生活に不可欠であり，常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など
◇主として「活用」に関する問題（Ｂ問題）
・知識，技能等を実生活の様々な場面に活用する力など
・様々な問題解決のための構想を立て実践し，評価・改善する力など
〇生活習慣や意識等に関する調査

〈分析結果の概要〉

１　本校の状況（全国との比較）

平均正答率で見た本校の結果は，国語Ａ，算数Ａ・Ｂともに全国平均を上回っており，全国平均とほぼ同等です。国語Ｂは全国平均をわずかに下回っていますが，全国平均とほぼ同等です。また，国語・算数とも「知識」に関するＡ問題より，「活用」に関するＢ問題の方に苦手意識が見られました。

２　教科にかかわる課題とその改善に向けての取り組み

【国　語】

①　本校の課題

〇「知識」に関するＡ問題を見ると，「話すこと・聞くこと」は全国平均正答率を上回っているものの，「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「読むこと」が全国平均正答率を下回っています。また「活用」に関するＢ問題を見ると，「書くこと」「読むこと」が全国平均正答率を下回っています。解答形式で見ると「記述式」による解答方法が全国を下回っています。これらのことから，本校では言語に関する基礎的な事項「読むこと」，「書くこと」に課題があることが分かりました。

②　改善に向けての取り組み

〇基礎的な言語事項について
・漢字練習，漢字の構成，漢字辞典の活用，同訓異字などの学習を繰り返し行います。また，日常生活の中で，ノートや連絡帳等に文や文章を書く際に漢字を正しく使うように指導していきます。
・ローマ字と仮名五十音と対応した指導や濁音，長音，拗音，促音等の音声と関連付け，規則性に気づかせるように指導をしていきます。また，生活の中で読んだり書いたりする機会や経験を増やしていきます。

〇「読むこと」について
・１つのグラフや図表から全体的な特徴や変化を捉えたり，複数のグラフや図表を比較し関係付けたりする学習を行い，図表やグラフの読み方について慣れるようにしていきます。

〇「書くこと」について
・読み取ったことを的確に表現するために，概略を示す言葉や比較を示す言葉などの表現の違いや効果など目的に応じた使い方を指導していきます。

【算　数】

①　本校の課題

〇「知識」に関するＡ問題を見ると，「図形」は全国平均正答率を下回っています。「活用」に関するＢ問題を見ると，「図形」が全国と同様に苦手意識が見られます。また解答形式についてみると，記述で答える形式は全国と同様に苦手意識が見られます。これらのことから，本校では「図形」領域と，図形や式を関連付けて論理的に説明する学習に課題があることが分かりました。

② 改善に向けての取り組み

〇「図形」領域について

・図形の性質を学習する場面において，具体物を用いた活動を取り入れ，実感的に捉えることができるように工夫していきます。

・コンパスや分度器等の使い方を定着させ，日常においても積極的に使用する場面を設定していきます。

〇論理的に説明すること

・問題解決のために，示された式に使われている数値の意味を考えたり，どのように計算され，使われているか考えたりする場面を設定していきます。

・図や式に表したものを児童が相互に説明し合う学習を設定していきます。

・表やグラフを使い大きさや考え方などに着目し，根拠を明らかにして説明する学習を進めていきます。

３　児童質問紙調査の本校の結果について

（１）児童質問紙から見られる本校の特徴

生活習慣

「朝食を毎日食べる」「毎日同じ時刻に寝る，起きる」という生活のリズムはほぼ形成されています。

自己肯定感

多くの児童は「最後までやりとげた経験」や「難しいことに挑戦する気持ち」「将来への夢」を持っています。その一方で「自分によいところがある」「友達の前で発表することが得意」とあまり感じていません。

放課後の生活

１日あたり，３時間以上テレビやビデオ・ＤＶＤを見たり，テレビゲームをしたリ，スマートフォン等でメールをしている児童はあまりいません。また，全国と比べて多くの児童が月曜日から金曜日までに１日あたり２時間以上，休みの日に３時間以上，勉強しています。さらに，毎日１時間以上読書したり，週１回以上地域の図書館を利用したりしている割合も全国平均よりも高くなっています。

家庭生活

家の人に学校の出来事を話したり，家の手伝いをしたりする児童の割合は全国平均と比べ低くなっています。その一方で，宿題をしたり予習をしたりしている割合は全国平均と比べて高くなっています。

学校生活

多くの児童が「学校に行くのが楽しい」「学校で友達と会うのが楽しい」と感じていたり，「学級みんなで話し合い意見をまとめている」と考えています。それに対して，「好きな授業がある」や「学級みんなでやり遂げたことがある」と考えている児童の割合は全国と比べてやや低くなっています。

地域への関心

「地域の行事に参加している」児童の割合は全国とほぼ同じですが，「地域社会などでボランティアに参加したことがある」と答えている児童の割合は全国と比べて低くなっています。また，多くの児童がテレビやインターネットを使ってニュースを見ています。

規範意識

多くの児童は，「いじめはどんな理由があってもいけない」「人が困っている時は進んで助ける」と考えています。しかし，「学校のきまりを守っている」と思っている児童の割合は全国と比べて低くなっています。

これまでの学習経験

多くの児童がこれまでの学習をふり返って，「自分たちでたてた課題に対して，自ら考えたり自分から取り組んだ」「情報を集めながら話し合い発表した」と考えています。その一方で，「友達と話し合う活動を行っていた」と考える児童の割合は全国と比べて低くなっています。

学習に対する意識

「４００字詰め原稿用紙２～３枚の感想文や説明文を難しい」と感じている児童の割合は全国と比べて高くなっています。

国語学習

「国語の学習が好き」と感じている児童の割合は，全国と比べて高くなっています。また多くの児童が「読書が好き」と答えています。

算数学習

「算数の学習が好き」「授業内容がよく分かる」と答えている児童の割合は全国と比べて高くなっています。その一方で，「算数の勉強は大切である」と考えている児童の割合は低くなっています。

今回の調査について

多くの児童が，国語Ａ・国語Ｂ・算数Ａの調査時間が十分ではなかったと感じています。

（２）改善のための方策

〇学校及び家庭での学習習慣が形成されるよう，昨年度より始めた家庭学習シート・自主学習ノートの取り組みを家庭と連携しながら定着させていきます。

〇テレビ・ビデオ・ＤＶＤ，テレビゲーム，スマートフォン等の使用について，家庭と連携を図るとともに，家庭（親子）でルールを決めるよう啓発していきます。

〇全校体制で授業改善を進め，「見通し」と「振り返り」を意識した授業づくりを進めていきます。

※新紺屋小学校ホームページでも公開しています。